

# 清水っ子

佐世保市立清水小学校 学校だより  
第2号 令和6年5月20日(月)  
文責 校長 井上 文典

～「本物の笑顔」かがやく清水小～

## 新緑の中の運動会 練習も本番も工夫して 精一杯頑張ります！

緑がまぶしい時期になりました。子どもたちは連休の後も、しっかりと気持ちを切り替えて登校しています。さて、本校は5月26日(日)に運動会を予定しています。子どもたちの成長した姿を見ていただきたいと思っています。

さて、運動会は、練習を含めて子どもたちの3つの姿を見ています。その3つとは「活躍している姿」と「貢献している姿」、そして「精一杯の姿」です。

運動会では「活躍」している姿が目立ちます。しかし、教師は、その姿だけではなく、まず、その子なりの「精一杯」の姿を見届けています。また、応援や係の仕事など、準備の段階から運動会を支えようとしている姿を大切にしています。「精一杯」と「貢献」の姿も想像しながら、地域、保護者の皆様にも応援していただければ、大変ありがたいです。

### 「精一杯」のためには、子どもたち自身が願いをもつことが大切！

運動会本番だけでなく、練習の時から、この「精一杯」という言葉と実践を大切にしていっています。この「精一杯」が出せるようになるためには、子どもたち自身が「願い」をもつ必要があります。「先生から言われたから」「お家の人が言ったから」などの動機では、「精一杯」は出せません。

例えば応援では、「最高の応援をしたい」という願いを一人一人がもたなければ「精一杯」の姿にはなりません。また、ダンス等の表現でも、「見られる」ではなく「見せたい！」という願いをもった時に精一杯の表現につながっていきます。子どもたちが、学校生活の中での「〇〇したい」「〇〇ができるようになりたい」という純粋な願いは、学びの大切な要素だと考えています。

### 「貢献できる」ということは、学びを生かすことができるということ！

運動会の応援では、子どもたちが協力し合う姿を見ることができます。自分のことより全体のこと、仲間のことを優先して行動している姿、他者に貢献している姿もたくさん見ることができます。特に応援団は応援歌や振付のアイデアを考えたり、練習したり、反省会をしたりする等、リーダーとして頑張っています。運動会の準備や練習では緑の下の方にもちとなって貢献している子どもの姿も、見ることができます。学びの成果としての「貢献」の姿もとても素晴らしいです。

## 頑張っている子の頑張らない時間「ほっとタイム」

### 運動会の練習で疲れた心と体には・・・

### 栄養と睡眠 けいちょうそして「傾聴」が効きます！

### お子さんの話を聞いてあげてください

頑張っているときは、実は悩みも出てきます。

お子さんが「あのね・・・」と話しはじめたとき、ほんの少し耳を傾け、聞いてあげるだけで、笑顔で登校するためのエネルギーになります。

ぜひ「そうね・・・」「そんなことがあったのね」「また、話してね」…と聞いてあげてください。

子どもたちは、「自分の課題は自分で解決したい」と思っています。しかし、ほんのちょっと支えてほしいときがあります。その支えが「傾聴」です。

運動会前…ご家庭でも頑張っている子の頑張らない時間「ほっとタイム」をつくってみてください。



# 応援団の6年生が校長室で話してくれました

## 紅組応援団

「応援団として『白組に勝ちたい』という願いを持っています！」  
「今、75点～80点くらいの出来です」  
「足りないところは、これからみんなで協力して伸ばしていきます」  
「5月26日の運動会は笑顔で終わりたいです！」

## 白組応援団

「紅組と本気で勝負したいです」「勝ちたいです」「絶対勝ちます！」  
「今の出来は70点です」「まだまだ頑張ります！」  
「声の出し方など、みんなにしっかり伝えていきます」  
「運動会は勝ちます！」



赤組、白組とも応援団の子どもたちの目がキラリと光り、本気で頑張るぞ！という覚悟が伝わってきました。

6年生にとっては小学校最後の運動会です。「精一杯」と「本気」を出し切って、自分の心に、最高の思い出として刻んでほしいと思います。



## 子どもたちが運動会のポスターを描きました

ポスターからもドキドキ、ワクワクを感じます！  
運動会当日は、玄関に掲示します！



本物の笑顔のために

## 「挨拶」「挨拶」(あいさつ)



「挨拶」には、押すという意味があります。

「挨拶」には、近づくとか進むという意味があります。

「挨拶」とは本来、押して近づくという意味で、禅宗のお坊さんたちの間で出会ったとき相手がどんなお坊さんなのか、さぐるために問答するときのことを表す言葉だったようです。

あいさつは相手がどんな人なのか、ファーストインプレッション（第一印象）としても大切です。さらに、もともとの語源から考えると「挨拶」が押すという意味であることから、自分からあいさつをすることが大切であるように思います。相手に押されて挨拶をするよりも、自分から心を開き、あいさつをする方が自己有用感（自分は必要とされている）、自己効力感（自分はやればできる）も高まり、他者との関係においても心が晴れやかな状態をつくっていきけるようにも感じます。

「あいさつ」ができる子に！ 形と共に、その理由も子どもたちに語っていきたいと思います。

## 家庭訪問（あいさつ訪問） ご協力ありがとうございました

本年度も、家庭訪問（あいさつ訪問）を実施させていただきました。保護者の皆様におかれましてはご多用の中、ご理解、ご協力をいただきました。本当にありがとうございました。